

外環道大深度地下トンネル工事による 建物損傷

その全容を把握するための住民調査・中間報告



2022年 7月23日(土)

18:00-20:00

調布市東部公民館 学習室(※1)

主催:外環振動・低周波音調査会(※2)

オンライン併用(※3)

資料代:500円(※4)

2020年10月18日に調布市で生じた大きな陥没、ならびにその後発見された地中部の空洞(3箇所)は、外環道トンネル工事に伴って発生したのですが、地上での物理的な影響はそれだけにとどまりません。トンネル直上のエリアを含む広い範囲において、道路や建物などに様々な損傷や変状がみられ、それらをつぶさに観察すると、単に老朽化によって発生したとは言えない、トンネル工事による振動と地盤の歪み(不同沈下など)によってもたらされたものであるだろうことがみえてきます。外環道トンネル工事の事業者は、一部のエリアについてのみ家屋調査などを実施していますが、それはあくまで各戸ごとの個別対応の枠内でなされるものであり、その枠があるためにかえって建物被害の全容が把握できなくなっています。

地元住民とNPO法人市民科学研究所とで結成された「外環振動・低周波音調査会」は、先に、騒音・振動・低周波音によってもたらされた健康影響の調査を実施し報告しました(2021年12月11日)。今回はそれに引き続いて、調布市内のエリアを中心に、約200戸の建物について、擁壁、ブロック塀、外壁、側溝など、外から目視できる部分を中心に、発生している様々な損傷やズレ・歪み・傾きなどを詳細に調べました。

シールドマシンによる地下でのトンネル工事が地上に何をもちたすのか—今後、専門家による検証もふまえて、しっかりと解明しておかねばなりません。この中間報告はその第一歩となるものです。

【内容】

自宅に発生した建物の損傷についての証言

調布市住民の方々から(3名)

調布エリアを中心にした建物損傷の広域調査の報告

上田昌文(NPO法人市民科学研究所・代表理事)

質疑応答

※1:京王線「仙川」駅から徒歩8分(調布市若葉町1丁目29番地21)

※2:この調査ならびに中間報告会は、高木仁三郎市民科学基金2021年度助成を受けてなされるものです。

※3:オンライン参加の方は7月21日(木)正午までに市民科学研究所ウェブサイトの広報ページの「申込みフォーム」からお申し込みください。定員は45名です。

※4:現地参加の方は当日に受付で支払ってください。オンライン参加の方は※3のページより、そこに記された方法(オンライン送金、ゆうちょ銀行、郵便振替)のいずれかで7月21日(木)正午までにお支払いください。

▶市民科学研究所のウェブサイトは <https://www.shiminkagaku.org/> 「建物損傷」で検索